特 集

一般外科医が知っておくべき
小児患者への対応

「一般外科医」という言葉に定義はないが，一般外科の診療の場において高齢の患者に遭遇することは決して稀ではなく，むしろ患者の多くを占める場合もあり，その傾向は今後さらに強くなるものと思われる．

一方，小児医療は少子化時代を迎えたわが国においても，その内容は複雑多岐にわたる傾向が強くなっている．前述のように，高齢者に対する外科診療はむしろ一般外科の中心をなしているため「一般外科」の範疇に含まれ，したがって，特に「高齢者外科」という診療科は存在しないが，「小児外科」はその特殊性から診療科として存在している．

しかしながら，「小児外科」が専門的に取り扱う消化管の閉塞や狭窄などの先天異常・機能異常，小児特有の腫瘍は別としても，「一般外科医」が小児に対して直接診断・治療に携わる疾患や，またそのような機会は決して少なくはない．本特集では，一般外科医が取り扱う可能性がある小児疾患の知識の重要性に鑑み，その最新の知見を解説していただく．

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2013